

## 第3章 現状と課題

市民それぞれが今、そして未来に向かってどうあるべきかという小城市の目標が示されていることを皆さんは、ご存知ですか？

### 小城市市民憲章

小城市は、秀峰天山と有明の海、田園に恵まれ、伝統、文化、自然と調和のとれた美しいまちです。

私たちは、小城市民であることに誇りと自覚と責任を持ち、平和を願い、未来へ向かって前進するまちを築くため、この憲章を定めます。

- 豊かな自然を大切にし、環境にやさしいまちにします。
- 歴史と伝統を受け継ぎ、教養を高め、文化を創造するまちにします。
- 健やかな心と体をつくり、福祉の充実したまちにします。
- 働くことに喜びと誇りを持ち、活力あるまちにします。
- 思いやりの心を持ち、認め合い笑顔が輝くまちにします。

市民の生活目標やまちづくりの行動目標となるものです。

### 小城市総合計画

(目指す将来像)

薫風新都

～みんなでつくる・  
笑顔あふれる  
小城市～

(基本目標)

「和」で織りなす  
美しいまち

(まちづくりの基本理念)

1. 共生と自立
2. 交流と連携
3. 個性と魅力
4. 参画と協働

自治体の最上位計画であり、行政活動のすべての分野における基本となるものです。

## 小城市における現状と課題

### 【昔】

今では“協働”と言われていますが、昔は、福祉サービスなどがなくても、困ったことを地域や隣近所で自然に助け合う取組みが行なわれていたのではないのでしょうか？

ご近所集まって人のうわさや世間話をする井戸端会議や、地域の世代を越えて知りあう機会として親子常会の開催など、みんな顔なじみで困った時には、互いに相談して行動できていたようです。

従来、地域の諸課題は、地縁での結びつきが強い地域で取組み、解決しようといった志があったと思います。



### 【いま】

核家族化などの進行や暮らしのあり方の変化により強い結びつきのあった地縁の力が希薄化しています。地域における交流の機会も減少するなど、お互いが連帯した地域自体の“地域力”が低下しているようです。例えば、葬儀など地域の共助ごとがビジネス化されてきています。

その結果、地域間での市民同士のつながりが絶え始めています。

地域づくりを担う主体的基盤が影を潜め、本来地域で解決できることも行政に求められ、その市民ニーズも多種多様に複雑化してきています。

そのような中、“地域で解決できることは地域で”ということで、防犯面では、老人クラブによる子ども見守り隊、各種団体による青色回転灯による防犯パトロール活動、環境面では、市民参加による河川一斉清掃が行われるなど、地域でも新たな“協働”の取組みが進んできています。





## 【将来】

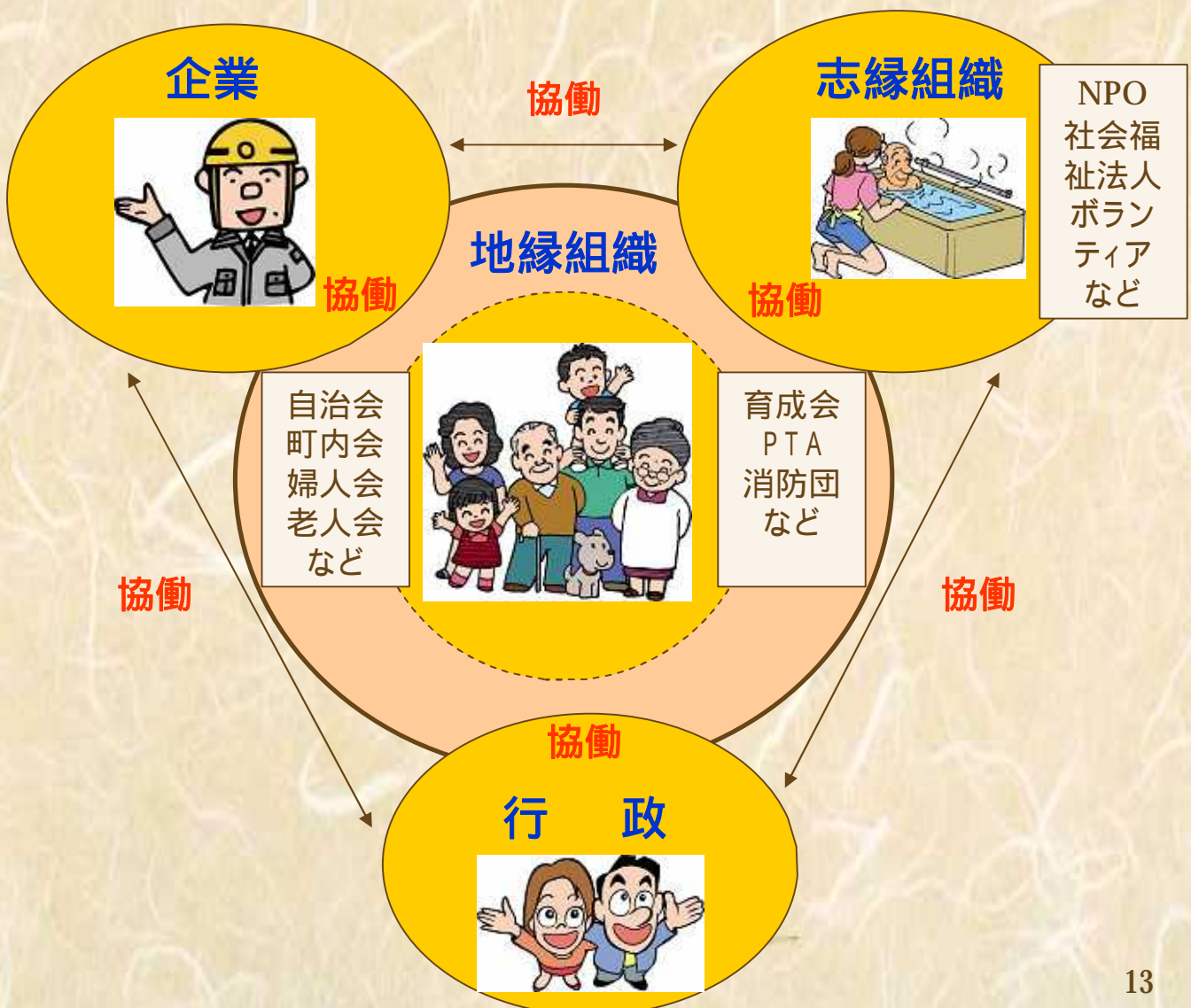
“協働”の必要性が理解され、みんなで力を合わせて取組むことで住みやすい地域づくりが実現します。

市民ひとり一人が地域の諸課題について責任と自覚を持ち、自主的に取り組んでいます。

行政、CSO、企業が役割を分担し、行政に代わってサービスを提供する新しい公共の考え方に基づき、協働で活動しています。

新しい公共が創造・創出された結果、柔軟なサービスが提供され、身近な所で課題解決ができています。

## 地域社会のイメージ



## 現状と課題(協働のパートナーの例)

### 市民

#### ～現状～

近所の人が家族を除く第一の支援者であることを理解していない。  
近所づきあいが希薄になっているが、やはり近所での助け合いは必要と感じている。

#### ～課題～

自らもサービス提供者になれるという意識を持つ。  
行政まかせのサービスが続かないことに対して危機感を持つ。

### 地縁組織

#### 区（一般的に自治会、町内会など）

#### ～現状～

地域住民同士で顔を知らない人が多く、コミュニケーションがとりづらくなっている。  
地域での連帯感やお互いさまと思いやりの意識が低下してきている。

#### ～課題～

地域のことを一緒に考える機会を設ける。  
地域の情報を共有する。  
世代間や異種・異質の組織などとのコミュニケーションを図る。

### 婦人会

#### ～現状～

それぞれ行政区単位で組織されていた婦人会が、世代交代や役員の引き受け手がなく、消滅しており会員数が減少している。

#### ～課題～

新たな活動分野の開拓や趣向を凝らした行事を行う。  
会員の確保（広く各年齢層に呼びかける。）  
各年齢層が持つ考えを取り入れ、仲間に入りやすい雰囲気づくりを行う。

## 老人クラブ

### ～現状～

会員の高齢化や減少により組織が弱体化している。  
新たな取組みによる活動が見出せない。  
地区単位の老人クラブの活動は良いが、市単位、県単位での動員要請が負担になっている。

### ～課題～

団体の存在意義を確認し、参加しやすい魅力ある活動を実施する。  
(自らも仲間づくりに努力する。)  
若手リーダーの養成と若手会員の組織化を促す。  
地区単位より大きな連携やネットワーク化することによって力が発揮される。

## 消防団

### ～現状～

地域への密着性、要員動員力即時対応力という特性を十分に発揮するため、初期消火や災害時には非常に重要な役割を担っている。  
女性消防団ができてきている。

### ～課題～

団員数の減少や、新規団員加入者の減少に伴う団員の高齢化と退団者が増加している。  
=地域の防災力が低下している。  
消防団員は、水防団員でもある。  
若い人も地域の一員として、自らの地域の安全・安心に努める。

## 自主防災組織

### ～現状～

個々人が「地域の安心・安全を守る」という意識を高揚させながらコミュニケーションをとって互いに理解している。  
災害時等には必要に応じた対応が迅速にできるよう組織化されてきている。

### ～課題～

組織構成員の高齢化と若者への周知、及び理解不足により加入が少ない。

実動経験が少ない。





## 志縁組織(個人の志・使命を社会的な力として集った組織)

NPO(法人の有無を問わず)(ボランティアグループ、市民活動団体など)

### ～現状～

明確な目的達成のため設立され、組織体制も確立している。

サービス提供の主体となり得意分野を活かした充実した仕組みによる柔軟なサービス提供ができています。

### ～課題～

資金確保が必要。

(補助金や助成金の確保など工夫が必要)

今後、より一層の協働を進めるための環境整備が必要である。

## 経済団体 事業所・商店街

(JA、漁協、商工会議所、商工会、ロータリークラブなど)

### ～現状～

CSR(企業の社会的責任)が叫ばれ、社会貢献事業に取り組んでいる。

営利を目的としており、採算性が重要視されている。

商店街でまちづくりを考え取り組んできています。

### ～課題～

企業市民として共に公共を担う

「市民としての役割と責任」を持つ。

企業の持つ資源を活用し、市民活動を理解し、支援を行う。

市民も地域の事業所や商店街を応援する。

## 学 校 育友会、育成会(P T A)、佐賀大学など

### ～現状～

各団体等の利点を出しあい地域社会の中で学校生活を見守る体制づくりができています。

佐賀大学憲章に「社会貢献：教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組めます。」と宣言され、小城市と相互協力協定を結んでいる。

### ～課題～

すべての市民が子ども達を地域の宝として見守るよう努める。

市民は、地域の子どもの育てる学校を理解し、支援する。

産学官連携による地域・社会貢献を果たす。